九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[04_02]九州大学大型計算機センター広報 : 4(2)

https://doi.org/10.15017/1467975

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 4 (2), pp.1-26, 1971-04-26. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

編　集　後　記

広報vol. 4　No. 2をお届けします。

3月末にハードウェア、ソフトウェアの変更を行ない、4月1日から稼動しておりますが、センターニュースの配布が遅れたために新しい情報が伝わらず、利用者の皆様に御迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。

前広報でお知らせしましたように利用負担金算定方式がかわりました。それにより5月1日からは演算時間、入力時間、出力時間、ジョブ占有主記憶量によって負担金が計算されます。利用負担金算定方式の詳しいことにつきましてはvol. 4　No. 1の54ページ、55ページを御覧ください。

今度のハードウェアの変更で共用ボリュームにつかう領域がふえました。実行段階にはいったジョブのカードデックを持ち歩いたり、遠くから計算する毎に送るのも大変ですし、入力枚数によっても負担金の計算もなされます。共用ボリュームに登録して大いにファイルの利用をしてください。

4月からジョブ種別についても変更がなされております。デバッグ用のXが新設されました。入力カード枚数500枚以内、出力はラインプリンター30ページと1500行。どちらか先にきた方で打切られます。コア使用量64K以内、CPU時間30秒以内というものです。
同時にA、B、Cジョブの制限もかわっております。特にA、Bジョブに関しましては、COREパラメータの指定によりコア使用量の少ないものは、CPU時間の制限をTIMEパラメータにより長くできるようになっております。ジョブ種別と制限に関してはセンターニュース No. 14を御覧ください。

以上お知らせしましたように、センターでは少しでも利用しやすいようにと運用方式を考えていますが、考える際に利用者の声は大きく影響します。仮設センターの時代には、薬院と箱崎と離れていた関係で不満も多く、投書箱（利用者の声）に質問・要望等多く入れられていたのですが、最近は少なくなりました。利用者の方が全く満足していらっしゃるとも思われません。要望・質問等ありましたら問合せ票、投書箱（利用者の声）を通じてセンターへお出しください。問合せ票は各連絡所、センター受付、プログラム相談室へおいてあり、質問に対する回答を書く形式になっております。また、投書箱（利用者の声）はセンター二階返却箱の入口のドアにかけてあります。

（小野記）